



横浜の10年

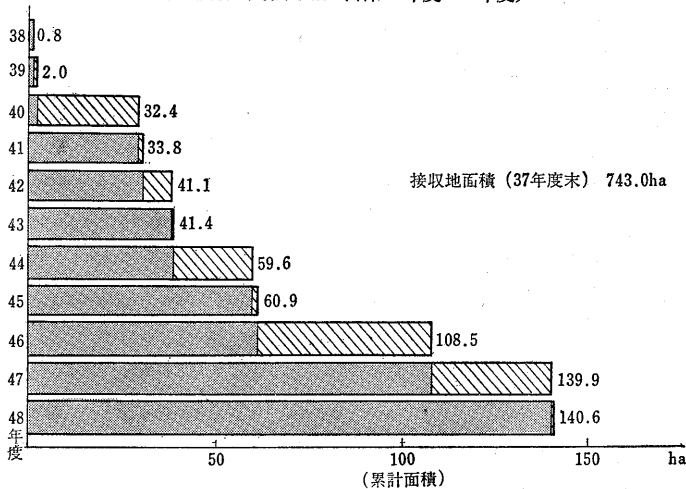
24 基地

西区と同面積の接収地がまだ……

終戦による米軍の進駐のため横浜はその中心部や港湾施設等広い地域を接収され長い間苦しんできた。しかし全市一丸となった接収地解除運動の結果、昭和四十八年度末までに大船・根岸・富岡・岸根など接収地の約六二%が解除された(図133)。これら解除地は公園・学校・住宅地などの公共公益用地として市民のために役立てていくこととしている。

現在まだ市内には、県下の接収地の半数の一四か所、面積にして西区の面積とほぼ同じ約六〇二ヘクタールの接収地があるが、これは、わが国では沖繩を除いた三沢・千歳・横田等の飛行場に次いで大きな面積である(図134・135)。市民のための町づくりを進めるうえで、なお多くの公共用地が必要な現在、こうした接収地の一〇〇%返還を求めて全市をあげて強力に取り組んでいかなければならない。

図-133 米軍接収地解除実績累計 (昭和38年度~48年度)



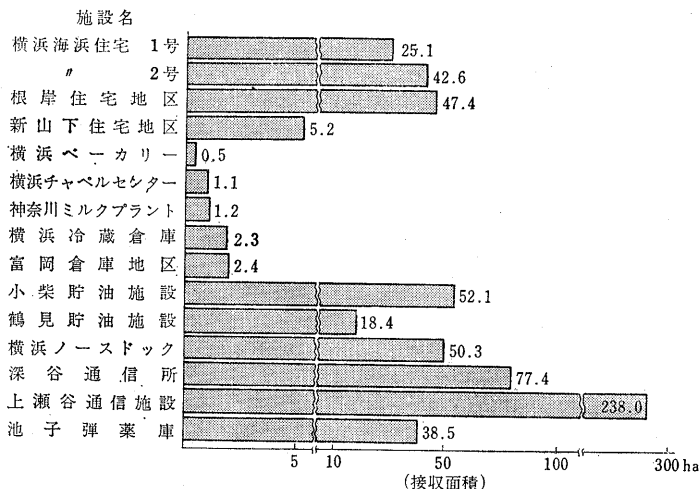
【注】 斜線部分は当該年度の接収解除面積である

【資料】 総務局



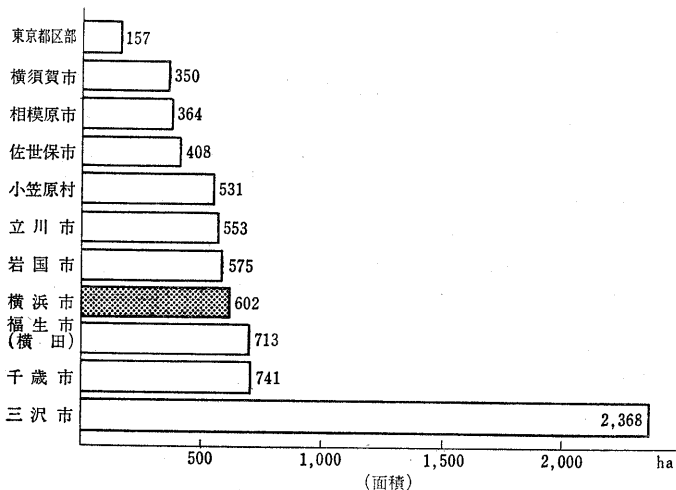
基地

図-134 市内接收地現況 (昭和48年度末)



〔資料〕 総務局

図-135 米軍接收地主要都市比較 (昭和48.7.1 現在, 除沖繩)



〔資料〕 総務局

